

International Forum on Development Service
Forum International du Volontariat pour le Développement

開発支援に関する国際フォーラム

フォーラム オタワ宣言

2012年10月14日から17日の間、国際ボランティア協力組織の代表者が、他のボランティア団体とボランティア関連組織と共に、世界各国からオタワに集まり、開発支援に関する国際フォーラム(フォーラム)の年次会議を開催した。

- 世界中の数百万人のボランティアの人権、平等、平和、開発、そして社会幸福に対する貢献を認める。
- 国連持続可能な開発会議(リオ+20)の成果文書「私たちが望む未来」の第43段落目の以下の部分を評価する:「広範囲な市民の参加、情報、そして司法・行政手続きへのアクセスが、持続可能な開発の推進に不可欠であること、持続可能な開発には、地域、国家、地方レベルの立法・司法組織、および全ての主要グループ、すなわち女性、子供と若者、先住民、非政府組織、地方政府、労働者と労働組合、企業と産業、科学・技術界、農民、および地域社会、**ボランティア団体**、財団法人、移住者とその家族などのその他ステークホルダー、および高齢者や障害者の意義ある関与と積極的な参加が必要であることを強調する。」
- リオ+20の成果文書の第248段落目の以下の部分を重要視し:「我々は、国連総会により合意さるべき地球規模の持続可能な開発目標の策定を視野に、全てのステークホルダーへ開かれた持続可能な開発目標(SDGs)に関する包摂的かつ透明性のある政府間交渉プロセスの設立を決議する」
- リオ+20のフォローアップにおいて、ボランティア団体が正式なステークホルダーとして含まれた包括的なプロセスの重要性を強調する。
- 6月28日に発表された国連事務総長の以下の声明を歓迎し、称賛する:「国連ボランティア計画が主導して行った”Volunteer Action Counts”(「世界のボランティアを数えよう」キャンペーン)によって数えられた、6,400万のボランティア活動を忘れてはいけません。これはボトム・アップ型で、草の根の自発的な行動の証であり、リオ+20が生み出した変革のための方向性の一つです。」
- 国連総会決議 A/RES/65/1「約束の実行:MDGs 達成のために団結」第17段落目の以下の文を想起する:「私たちは、地方、地域、国家レベルの非政府組織(NGO)、ボランティア団体、財団法人、企業やその他のステークホルダーを含む市民社会に対し、2015年までにミレニアム開発目標を達成するための貢献と同時に、国家レベルでの開発への役割を高めていくことを要請し、政府としてしても、これらのステークホルダーの包摂に責務を負う。」



International Forum on Development Service
Forum International du Volontariat pour le Développement

開発支援に関する国際フォーラム

以上を踏まえ、我々は以下の事柄にコミットメントを表明する:

- ・ 持続的な開発を達成するために活動している組織や、パートナー、個人、コミュニティを結集することで、動員を継続すること;
- ・ リオ+20の成果文書に基づき、全てのレベルにおいて、持続可能な開発のための意思決定、計画、政策やプログラムの実施において、主要なグループやその他のステークホルダーと協力し、ボランティアとボランティア関連団体の積極的な参加を促していくこと;
- ・ 2015年までの3年間とそれ以降の持続可能な開発のための変革者として世界中のコミュニティや個人と共に活動しているボランティアと関連組織を引き続き動員していくこと。

開発支援に関する国際フォーラムの招待に応じた下記の組織と世界中のボランティアは、リオ+20のフォローアップ・プロセスへの参加をここに表明し、特に、以下に挙げた項目に注力します。

- ・ 持続可能な開発目標 (SDGs) に関する政府間オープン・ワーキング・グループとの関わりの仕組みやモダリティについて、例えば、持続的な開発目標のための諮問委員会 (MAG) の設立提案のような形で、他のステークホルダーや伝統的なアジェンダ21の主要グループと同等の条件で、実質的議論に参加すること;
- ・ リオ+20の成果文書の第84段落に従って、持続可能な開発委員会に替わって設立される予定の持続可能な開発に関する高級政治フォーラムへの多様なステークホルダーの参画のための仕組みに積極的に関与していくこと;
- ・ ポスト2015年に関するハイレベル・パネルの審議とポスト2015年の開発アジェンダの事務局の活動と普及活動を支援するために他のボランティア関連組織やステークホルダーと協働すること;
- ・ 国連開発グループ (UNDG) が世界中で行っている国別諮問会議を含む、国レベルでのポスト2015年開発枠組みについての議論に国内の支持者を通じて積極的に関与していくこと。

2012年10月17日 於:オタワ



International Forum on Development Service
Forum International du Volontariat pour le Développement

開発支援に関する国際フォーラム

2013年1月7日現在、フォーラム・オタワ宣言を支持している組織:

Volunteer Service Abroad – ニュージーランド
CUSO International – カナダ
Singapore International Foundation – シンガポール
Volunteer Service Overseas Jitolee – ケニア
FK Norway / Fredskorpset – ノルウェー
Australian Volunteers International – オーストラリア
Mayan Families – グアテマラ
Unite Suisse – スイス
Skillshare International – 英国
Red Iberoamericana De Bosques Modelo (Modern Forestry) – コスタリカ
Cachapoal Model Forest – チリ
Canadian Crossroads International – カナダ
Uniterra – カナダ
青年海外協力隊 – 日本
VSO International – 英国
Fresh & Young Brains Development Initiative – ナイジェリア
African Youth Initiative on Climate Change
South East European Youth Network (SEEYN)
Uganda National Volunteer Link – ウガンダ
FUNDATED – グアテマラ
Comhlamh – アイルランド
The International Center for Innovations in Civic Participation (ICP) – アメリカ合衆国
Cross-Cultural Solutions – アメリカ合衆国